Chapter 11 : **下水の逆襲＆悪臭包囲戦 Part 1**

ポーキーマンいたずら作戦の大成功にまだクスクス笑いながら、**ヤミラミ**はシャワーズの庭の隙間を抜け、お気に入りの隠れ家――下水道へ戻っていった。

そこは暗くて、湿っていて、たまらなく不潔。

そしてその汚物の中に、見慣れた丸っこいシルエットがいた。賞味期限切れのきのみをむしゃむしゃ食べている。

「**ヨクバリス**！？」

下水に半分埋もれ、クズをまとったぽっちゃりリスが振り向いた。「**ヤミ兄！**」

二匹は、まるで下水道で育った兄弟のように熱く抱き合った。

「まだいたずら王子やってんのか？」ヨクバリスが、べちゃっとしたきのみを口に詰め込みながら言った。

「**当然だぜ**。」ヤミラミがニヤリと笑った。「でな、次のターゲットは……**バンギラス**だ。」

ヨクバリスの目が見開く。「あの岩の巨獣？前にあいつの夜食のマフィン盗んだら、ほぼ押し潰されかけたぞ。」

「完璧じゃねえか。やつを**絶望とウンチで沈めてやろう**。」

計画はこうだ。

二匹は下水の奥深く、もっとも汚くて処理されてない泥水に飛び込んだ。腐ったもの、油、そして……それってミルタンクのチーズか？どうでもよかった。あまりの臭さにベトベターですらむせるレベルだった。

その上に、月明かりの中、静まり返るバンギラスの豪邸が建っていた。

屋内では、バンギラスが珍しく**静寂な夜**を楽しもうとしていた。

スリッパを履き、

うがいして、

トイレの便座を下げて、

ついに、便器に腰を下ろした――その瞬間。

**ドッカーン！**

茶色いカオスが配管から噴き上がった。

ヤミラミとヨクバリスがトイレから吹き出し、**下水まみれで突撃開始**。

「**便器の神に捧げよ！！**」ヤミラミが叫ぶ。

「**カビたマフィンの名のもとに！！**」ヨクバリスが叫ぶ。

バンギラスは吹っ飛び、大理石の洗面台をぶち破り、**悪臭の津波**に飲み込まれた。壁がひび割れ、芳香キャンドルが悲鳴を上げる。

屋敷中の窓に、**緊急悪臭アラート**が灯った。

その豪邸は……地獄のように臭った。

嘔吐寸前で半狂乱のバンギラスが怒りの咆哮をあげた。

「**誰だぁぁぁああ！！俺のトイレにヨクバリス爆弾仕込んだやつはあああ！！！**」

ヤミラミとヨクバリスはすでに下水道に逃げていて、**カオスの悪魔のように笑い転げていた**。

「たぶんあいつの金ピカトイレ、壊したな。」ヨクバリスが笑う。

ヤミラミが下水の泥を目から拭いながら答える。「**やる価値はあったな。**」

**その頃…**

街の上空を飛んでいた**ホウオウ**は、ふと鼻をひくつかせ、むせた。

「……おい。誰だ、**聖なる下水限界**を超えたやつは。」